

稲吉さんから三河地震の経験を聞く

ぼくは、稲吉と申します。

昭和12年この深溝小学校に入学し、昭和20年の3月に卒業しました。三河地震は、その昭和20年の1月13日に置きました。

そのころ小学校は国民学校という名前で、この深溝小学校は尋常科が6年、高等科が2年ありました。12年に入学して、20年の3月に卒業です。三河地震と言うのは、昭和20年の1月13日の午前3時38分。冬のことで、すから、まだ真っ暗な寒い朝です。その時に大きな音がして、すごい揺れがあって、寝ていた僕もびっくりして目が開いて、外へ飛び出しました。

そうしたら、一人だけ表の方へ逃げたおばあさんが、「おーい、西の家が見えんぞ。」と大きな声で叫びました。西の家というのは、T・Iさんの家ですが、昭和10年ごろに建った、逆川で一番大きな二階建ての家でした。その二階建ての家が見えなくなってしまった。裏の藪の方に逃げた僕や僕のお父さんやおじいさんとお母さんと一緒に表に出てきて見て、やはり家が見えないので、西の前の方に行ってみると、二階建ての大きな家が、ぺっちゃんこに潰れてしまっておるので、これは大変だと。そうしているうちに、家の中の方から何かコトンコトンと音がするので、僕のお父さんが「これは、中で下敷きになった人が助けを求めているのだ。早く屋根を破って助けださなきゃ。」とそう言って、二階の屋根でもトットと歩いて上がれるほどの低さになってしまっているのだから、上がって瓦を2メートル四方位、約百枚ちょっとですけど、これをまず手渡しで取り除いた。その間もまた、ガタガタガタッと大きな余震が来る。僕は驚いて逃げかけたらお父さんが「一番高い屋根の上におって、一番安全な所におるのに、逃げることはない。早く瓦を片付けろ。」と、そりゃそうだ。一番高い屋根の上にあがっているのだから、いくら揺れても、もう落ちて来る物は何もない。一所懸命、瓦をみんなで、おじいさんやおばあさんや手送りで送って片付けた。屋根の下に、瓦の屋根土があるんですけど、壁土と野地板を家にある道具で、箆を掘る道具や（戸ぐあい）なんかで、上から野地板を破って、そして、のこぎりでその下にある四角い垂木をのこぎりで切って取り除いて、もやの下にある二階梁ものこぎりで切って、そして、その下に二階の縁、厚さが2cmほどの厚い縁板があるので、それを破るのはなかなか大変でした。でも何とか破って二階梁ものこぎりで切って取り除いて、それで、中に入りました。見てみると、家の中も鴨居が折れて、ぺしゃんと転んで、その鴨居の下におじいさんもおばあさんもいました。急いでその鴨居をのこぎりで切って取り除いて、外へ出しましたけれども、おじいさんは胸を鴨居で打たれたのか、胸がつぶれて死んでおりました。おばあさんは頭へ鴨居が当たった。頭に大けがをして、亡くなっておりました。それで、「まだ小さい5歳のA君がどこかに居るはずだ。」と探

してみると、布団の下で、倒れた家のいろいろな板や柱や鴨居なんかに布団がぎゅーっと押されて、その布団の中に息ができなくて、窒息しておりました。急いで A 君を、布団をよけて外へ取り出してみると、お父さんが「これは、A 君は助かるかもしれない。」と、人工呼吸を一生懸命 30 分くらいしましたが、息を吹き返すことはありませんでした。逆川で一軒の家で、3 人一緒に亡くなってしまった。3 人一緒に亡くなってしまったのは、逆川でも一軒だけです。逆川で 7 人の人が地震で家が転んで、下敷きになって死亡しました。それで、一番上の兄さんの K さんがそこらに見えんぞと言っていると、明るくなって来まして、僕のお父さんが言いました。他の人も集まって来て、「今日は夜警の当番だよ。」と、空襲がたびたびあるので、消防団に入っていた人は夜警をしていました。それが、逆川の真ん中にある公会堂の横に夜警小屋があったのですが、その夜警小屋もつぶれて、中で当番をしていた二人の消防団の人は若いので、二人で壁を押しつけて、外へ出て見ると、その夜警小屋の裏の、T・I さんの家も潰れておった。その隣の S・K さんの家も潰れておった。中から「助けてくれ、助けてくれ。」と声がする。夜警の詰め所におった二人は、一所懸命にその人たちを助けようとした。救助作業をした。K さんも自分の家がつぶれて、大変なことになっていることを知らずに、夜警小屋の裏の家の人を助け出すような救助作業をしていた。僕は行って、「K さん、家が潰れちゃって、おじいさんもおばあさんも大変なことになってしまっているから、速く家へ来て。」と言いました。それで、家に帰って、家が大変なことになっていることで、びっくりしました。

この大地震は、逆川の羽梨神社は本殿も拝殿もみんな倒れてしまった。前にあった神殿の灯籠や鳥居もみんな倒れてしまった。浄圓寺の本堂もぺちゃんこに潰れてしまって、本堂の隣にある送り門も壊れてしまった。

一段落して学校へ自転車で来てみました。高等 2 年の時に自転車で来ますと、途中で、家が倒れたりして、電線の引き込み線が下に垂れ下がっている。自転車でビューと走っていく、電線へ首をつってしまって、転んだりしながら、何とか学校に来てみると、学校の木造の校舎が 2 つ傾いておる、他の建物も傾いておる。他の建物もたくさんある。その当時、剣道教室と工作室が他の方がありました。その裏の方に奉安殿もありましたが、潰れてしまった。奉安殿と言うのは、天皇陛下のお写真を祭ってある所です。小使い室や宿直室もぺちゃんこ。他にうさぎ小屋、便所、校舎と校舎をつなぐ渡り廊下、全部ぺちゃんこに潰れてしまった。残ったのは傾いた校舎が 2 つ。その校舎も学校の校舎は建物が大きいので、屋根が大きいので、屋根の勾配が五寸勾配になってる。普通の家の屋根は四寸勾配ですけれども、五寸勾配は屋根が急なので、地震で屋根の瓦が全部落ちてしまっている。それで、傾いている。もう学校に来てはどうし

ようもない状態でしたね。

一度に大勢の人が亡くなったので、火葬をする場所に困りました。逆川で亡くなった人は7人でしたので、従来の火葬場の中で何とか場を作って（遺体を）燃やす焚き物也没有ありませんので、稲をはぎにかけるとはぎ杭（くい）をみんな持ち寄って、それを敷いて、その上に7人の人を並べて、藁で囲って、火をつけて火葬しました。

深溝の一之瀬と常盤と学校の手前の東才で、20人位の人が亡くなりました。天上坂に火葬場がありましたが、その火葬場では何ともならなかったので、拾石川の河川敷に持って行って、今の一之瀬の T・M さんの前の所、それから、こちらの時狭（時近・狭間）の人たちは、天白川の河川敷にみんな並べてね、やっぱりはぎ杭の上に置いて、藁で囲って火葬しました。

それで、その翌日（14日の日曜日）は、日曜日でしたけれど、高等科の生徒は学校が大変なことになっているので、高等科の生徒だけ学校に来まして、地震で壊れて足ぶみもならん所を、壊れた物を直しました。そうして、その翌日の15日は、全校生徒が登校しましたが、小さい子たちは壊れたものを何もすることができませんので、大きな子ども6年生以上は壊れた家の片付けを手伝いました。

校長先生や学校の先生が、「学校がこんなことになってしまって、子どもたちをどうしたらいいだろうか。」と区長さんたちと相談をして、「地震の被害が割合と小さかった里区の方のお寺で勉強するように、お寺に頼んでみよう。」と、そういうことでお寺へお願いをして、僕たちの高等2年と3、4年生は長満寺の大きな本堂の中に幕を張って、3クラス入って勉強しました。そうして、長満寺のすぐ下の松林寺は5年生が行きました。三光院は6年生が行きました。その隣の本光寺は割合と場所がいいので、1、2年生と高等1年生が行って、勉強することになりました。長満寺はちょっと高い所にあるので、前から上がっていくのに高い石段があるから、小さな子どもが危ないので、3、4年生と高等2年を預かってもらうように頼まれたと思います。

この地震が三河地震と名付けられまして、渥美湾を震源としてマグネチュード7.1の地震でした。この三河地震での死んだ人は約2,250人。負傷した人は3,600人。住宅が全壊したのは5,500戸と言われております。太平洋戦争の終わり頃で、軍が全てを支配していた頃なので、軍隊の都合の悪いことは一切報道されませんでした。地震で大被害を受けてみんなが泣いていることも、ニュースやラジオでも、一般の人には報道されませんでした。（一般の人は）あまりわかりませんでした。

それで、深溝断層のことについて少し話します。深溝断層は、愛知県指定の天然記念物になっています。通称「三枚田」です。というのは、一枚の田んぼ

が地震の断層で3つになってしまった。通称「三枚田」と言っていますが、この断層は逆川の北側の山からずっと西尾市の方、西尾市の方から幸田町へ入ってきて、西深溝の池の南側の方から山の中を通過して、深溝小学校の端、ちょうどこの辺（多目的室の辺り）を断層が通りました。そして、日高医院の前の信号の辺から、その当時はずっと向こうの方まで田んぼや畑ばかりで家は一軒もありません。その中を1.5m、多い所は2m位の断層ができて、海谷の西の山を断層が通って、形原の町の中をぬけて三河湾に出る。その断層は、東大の名誉教授の津屋先生によって「深溝断層」と名付けられました。

その後の調査によりまして、この断層は活断層でありまして、総延長は蒲郡市から西尾市、幸田町の方まで、全長28kmに達していることが明らかになりました。三ヶ根山の山地を含む地塊が、東北東の方に突きあげられてできたものであると言われています。

今の西深溝の池の少し上の所に、青い杭と赤い杭を打ってある所があります。その最大の上の方は、断層の方が高いですね。高い方から低い方まで、最大落差が1.5m。こうして、地場がずれておるのは最大1m位。行ってみれば地震の時にできた断層だなあとということが、青い杭と赤い杭を見ればわかります。今、そういうような所は他にありませんので、皆さんも近藤製作所の所から上の方にあがって行って、西深溝の池をちょっと西に行った所に、この深溝断層を説明した文章と図面を書いたものが大きく立っておりますので、みなさんも地震でこんなことがあるのかと見ていただきたいです。

これで終わります。

僕は81歳と6カ月の年よりでありますので、今から65年も前のことでありますので、忘れてしまったことも大変多いと思います。皆さん方にもわからないことが多いと思いますが、どうか何でも質問をしてください。

質疑応答

問) 地震で一番つらかったことは何ですか。

答) 学校が無くなってしまったことです。みんな一緒に遊んだり、勉強したり、学校に来るのが一番楽しかった。学校が無くなってしまった。

問) 地震が起こって、ご飯などはどうしていましたか。

答) そうだね、昔のことだもんで、みんな自分の家でかまどでご飯を炊いて、やっておりました。始めの頃は炊き出しもしましたね。

問) 食べるものはあったですか。

答) はい。みんな百姓ですので、家にお米も野菜もありました。

問) 元通りになるまで、どのくらいかかりましたか。

答) 学校が元通りになるのは、僕たちが卒業してしまってからだったので、いつ頃だったかはわかりません。僕たちは学校が無くなってしまったので、卒業式は長満寺で行いました。愛知県の小学校のうちで、お寺で勉強したり、お寺で卒業式をしたりした学校は深溝小学校だけだそうです。

問) 寒さをしのぐのにはどうしましたか。

答) 夜、寝る時に寒いので、余震がガタガタくるので、怖いから家の中で寝られない。いつ、家が壊れるかわからない。みんなそれぞれ、藁で小屋を作って、夜は藁小屋でみんな寝ました。その藁小屋へどの家にも柱時計があったので、その柱時計を持って行ってかけて、でも、余震で傾いでしまって、時計が止まってしまうのです。余震で時計が止まったことは4回位ありました。

問) 余震はどれ位長く続いたのですか。

答) 藁小屋で寝たのは1カ月位。余震のガタガタ来るのは、10日位でした。

問) 家族は全員無事だったのですか。

答) はい。ぼくの家は「さや」と言って、屋根が小ぶりの萱で葺いてあったので、家全体が軽いもので、いくら揺れても家は潰れなかったです。だから、だれもけがをしませんでした。そういう草屋根の家がね、逆川には半分以上あったですね。昔はみんな自分で建てたんです。

問) 地震が来てから、一日の生活の中で、一番変わったのは何ですか。

答) お寺で勉強していても学校のことが心配でしたし、学校の方のお手伝いも高等科の生徒はしなくてはなりませんでした。長満寺の東の方の山で、お寺の人たちがヒノキを切っておいてくれましたので、高等科の生徒はみんなで行って、綱をつけて山からヒノキを車の行く所まで運びました。車と言っても自動車ではないので、学校には5～6台の木でつくった大八車がありまして、その大八車を引っ張って行って、山から出したヒノキを大八車に乗せて、みんなで学校へ校舎を起こすつつかい棒にするように運びました。

そのつつかい棒を取りに行く時に、山の方に雪が降って、山も道も雪がずつと積もっている。そこの中をみんなで行って、綱をつけて「よいしょ、よいしょ」とヒノキを引っ張り出しました。雪があったもので、かえって大きなヒノキの材木がよくすべって出たと思いますけど。

問) 校舎が傾いていたので、そのつつかえ棒にするヒノキということですか。

答) そうです。

問) つっかえ棒をした後に、校舎に入って勉強したということですか。

答) そうです。あります。つっかえ棒の校舎のままでした。

問) 傾いたままの校舎ですか。

答) 傾いておるのは、さえきさんと言って、そういう傾いているのをジャッキで直す職人の人がいました。みんなこの家も傾いていたので、そのさえきさんは大忙しでした。そっちの家もこっちの家も、ジャッキでギリギリとやってきました。

8月15日に太平洋戦争が終わったんですけど、戦争が終わってからも品物が足りなくて、食糧が足りなくて、僕たちのように農業で家にお米のある人はご飯が食べられましたが、食べられない人が多く、大変みんな困っていた時代でした。

問) 地震のすぐ後のお風呂はどうしましたか。

答) お風呂は、その頃は五衛門風呂と言いました。下に鋳物の釜があって、木で作った桶があって、その桶が下の釜の上に乗って、お釜と桶の間を縄をなって、その縄を詰めて作ったお風呂です。だから、他所かへ持って行こうと思へば持って行けた。移動ができたのです。風呂が壊れてしまった人は、ドラム缶を切って、そのドラム缶へ水を沸かして風呂にした人もありました。

ありがとうございました。話をよく聴いてくれて、とてもうれしいです。